

コラム 小滝の地すべり（位置 No. ②）

姫川の支流、小滝川の小滝川ヒスイ峡は、日本では新潟県青梅町橋立とならぶ二大ヒスイの産地で、昭和31（1956）年6月に国の天然記念物「小滝硬玉（ヒスイ）産地」に指定されています。

この小滝川ヒスイ峡の近くには、巨大魚の伝説がある池として有名な、高浪の池があります。この池は、過去の赤禿山の大きな地すべりによってできたと言われています。

新潟県土木部砂防課・糸魚川土木事務所（1993）によれば「赤禿山の北斜面から小滝川ヒスイ峡にかけて、長さ約2km、幅約1km、すべり面深さ約50～100mと推定される巨大地すべりが存在しています。赤禿山山頂下の斜面はこの地すべりによって形成された落差約400mにも達する滑落崖と考えられています。」

平成3年（1991）の雪解け後、小滝川ヒスイ峡に面した右岸斜面に多数の亀裂が発生し、一部の斜面には崩壊が発生しました。この地すべりは、赤禿山の巨大地すべりの小滝川に面した末端斜面が崩れたものでした。

白丸①は急崖斜面で発生している崩壊型の地すべり、黄色丸②は末端が小滝川まで達する地すべり、赤丸③は最大規模の地すべりで、幅約300m、長さ約150m（新潟県土木部砂防課・糸魚川土木事務所）で、小滝川に向かって移動したため、貴重な文化遺産である小滝川ヒスイ峡が埋没する恐れが生じました。

このため、平成3年（1991）11月に災害関連緊急地すべり対策事業が採択されました。斜面上部には排水工、末端に護岸工と押え盛土工、更に深さ60mの集水井等を施工し、平成4（1992）年度で完了しました。

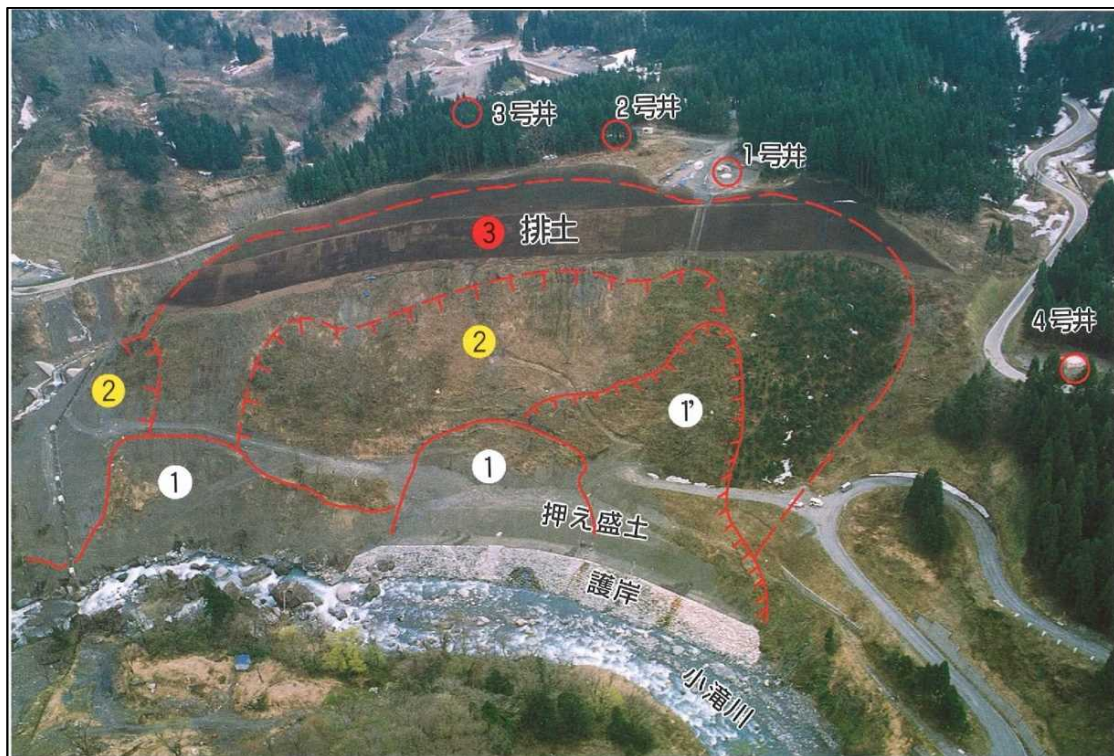


写真 2.57 対策工事後のヒスイ峡斜面
（新潟県土木部砂防課・糸魚川土木事務所，1993）

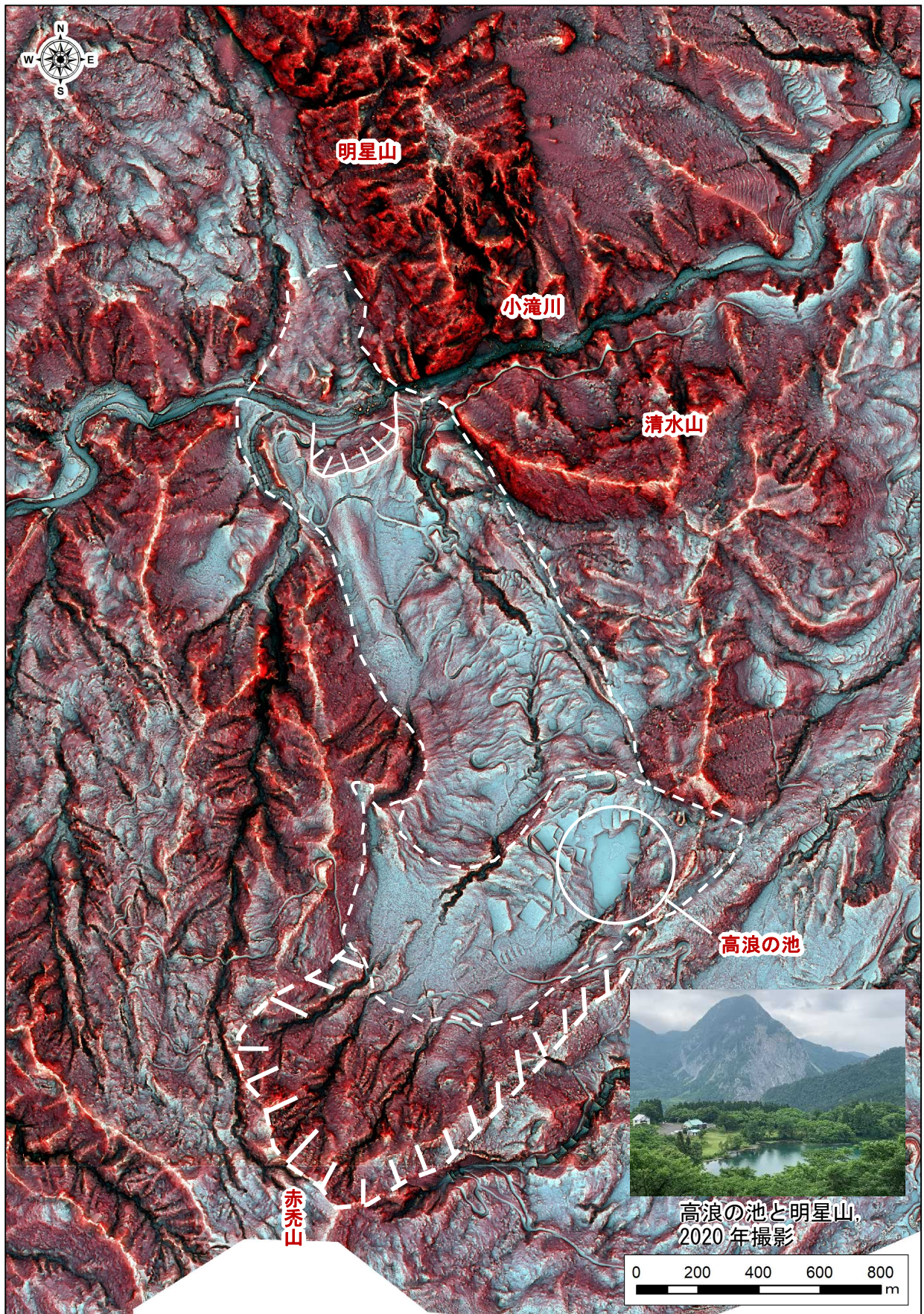


図 2.52 小滝地すべり周辺の赤色立体地図